

メキシコ国 環境配慮型空調機普及促進事業 ダイキン工業株式会社

メキシコ国の開発ニーズ

- パリ協定やモントリオール議定書キガリ改正を受け、メキシコ政府は、2030年までに22%のCO2排出削減を掲げている
- 安価な電気料金、省エネ化の遅れにより、電力消費量やCO2排出量の増加への対策が課題となっている

普及促進事業の内容

- 環境配慮型空調機の現地実測試験結果により、有効性の証明と効果の定量化
- 本邦において、ダイキン社のゼロエナジービルディング(ZEB)や製造現場等の視察を通じ、省エネ技術への理解を促進
- ワークショップを開催し、日本の省エネ政策の知見を共有

提案企業の技術・製品



製品・技術名

低GWP冷媒R32を用いた
インバータ式空調機
※GWP: 地球温暖化係数
(Global Warming Potential)

事業のポイント

- ・日本の省エネ政策に係るノウハウと冷媒R32の技術を合わせて紹介し、メキシコの省エネ政策を後押し
- ・気候変動に係るCO2排出削減に貢献

メキシコ国側に期待される成果

- エアコンのフロンガスに起因するCO2排出量を1/3に削減
- 環境配慮型空調機への推進により2030年までに最大1200万トンのCO2排出削減と、発電所5.1機分の電力需要を抑制
- 財政負担要因の電力補助見直し

日本企業側に期待される成果

現状

- 省エネ政策が弱く、安価な電気代により、消費者の意識が低いため、環境配慮型空調機が普及しない

今後

- 省エネ政策の向上や電力料金見直し、環境配慮型空調機導入時の投資回収プランを消費者に訴求する等、メキシコの省エネ政策を支援するとともに、ビジネスを拡大